

学 位 論 文 審 査 要 旨 公開審査日 2014 年 6 月 25 日 (水)

報告番号： 乙 第 2072 号	氏名： 大淵 紫
------------------	----------

論文審査 担当者	主査 教授 河島 尚志 印	副査 教授 松岡 正明 印
		副査 教授 石川 孝 印

審査論文の題目: A lower serum level of middle-molecular-weight adiponectin is a risk factor for endometrial cancer (血清低濃度中分子量アディポネクチンと子宮体癌のリスク要因との関連)

著 者: Yukari Ohbuchi, Yasunobu Suzuki, Ikuo Hatakeyama, Yoshifumi Nakao, Tsuyoshi Iwasaka, Atsuya Fujito, Keiichi Isaka

掲載誌: International Journal of Clinical Oncology published online: 22 August 2013

論文要旨:

血清低濃度アディポネクチンは、子宮体癌の発症リスクを軽減することが知られている。近年、アディポネクチンは分子量から、3量体、6量体と別れ、それぞれの生理作用ならびに活性が異なることが知られてきた。現在まで、分子量別アディポネクチンと子宮体癌のリスク要因との関連は不明である。本研究では、血清アディポネクチンを分子量別に測定し、子宮体癌の発症リスクとの関連について他の因子を含め、多変量解析法にて検討を行った。血清低濃度中分子量アディポネクチンは、子宮体癌のリスク因子として唯一独立した危険因子であり、子宮体癌の発症予防に応用されうることも考えられた。

【方法】

対象は、子宮体癌43例(平均年齢61.2±9.8歳)、健常コントロール群62例(平均年齢58.1±8.3歳)とした。血清中のアディポネクチン量をサンドイッチ酵素免疫測定法(ELISA)にて、総分子量、高分子量、中分子量、低分子量にそれぞれ分画測定し、分子量別アディポネクチン濃度と子宮体癌の発症リスクについて統計解析ソフトの1つであるSPSS Statistics 17.0(SPSS Japan Inc., Tokyo, Japan)を用いて解析した。

【結果】

中分子量アディポネクチン血清濃度は、子宮体癌0.85µg/mt(範囲:0.37-5.40µg/ml)が健常コントロール群1.40µg/mt(範囲:0.52-4.50µg/ml)に比較して有意に低下(P<0.01)していた。また、年齢、体容積指数(BMI)、高血圧、糖尿病を調整し多変量解析を用いて比較検討した結果は、中分子量アディポネクチン濃度の低下のみが子宮体癌の発症リスクに最も強く関連(調整オッズ比:4.89, 95%信頼区間値:1.25-19.11, P=0.022)していた。一方、高分子量・低分子量アディポネクチン血清濃度には有意差はなかった。

審査過程:

1. アディポネクチンの生理作用や受容体を含め、研究の意義に関する明瞭で適切な説明がなされた。
2. 本研究に用いた検査方法の信頼性に関して質問がなされ、的確な回答が得られた。
3. 結果ならびにその解釈特に糖尿病、肥満との関連について質問がなされ、明瞭な説明がなされた。
4. 乳がんとの過去の報告との違いについて質問がなされ、解釈・考察に関して適切な回答が得られた。
5. 今回の結果を踏まえた今後の研究や応用について質問がなされ、適切な回答が得られた。

価値判定: アディポネクチンの分子量別の臨床像との関連は子宮体癌において過去検討されておらず、本研究において、血清低濃度中分子量アディポネクチンが、子宮体癌のリスク因子として独立した危険因子であることが初めて証明された。また、この結果によりアディポネクチンの治療応用の可能性も示唆された。よって学位論文としての価値を認める。